

## いつ来るか分からないから心構えを育てる防災教育

平成30年もいよいよ後1ヶ月となりました。12月は、学校では2学期の締め括りの月です。逆に、子どもたちにとっては、まとめとして頑張りつつも、クリスマスや冬休みがあって、楽しいことが多い月でもあることでしょう。

12月5日には、「じんけん参観」を行います。全ての子どもの人権が尊重されるような学校、学級、子ども社会を創り上げるために、本年度から教科となった「特別の教科 道徳」の学びを大切にしています。この日も人権に関わる内容について道徳や特別活動等の授業を公開し、授業を通して、できれば帰ってから子どもと保護者が共に人権を考える日にさせていただければと考えております。

さて、11月27日に、昨年度天候が悪く実施できなかった幼小中合同津波避難訓練を行いました。昨年度の保護者アンケートで、一番実施してほしいとの声があった訓練です。幼稚園児と小学生と一緒に地震後の津波を想定して錦城中学校へ二次避難を行い、幼・小・中学生と一緒に兵庫県の「震災・学校支援チーム(EARTH)員」の錦城中学校大谷先生から3つの震災の経験についてお話を聞きました。「一番は自分の命を守ることをしっかり考えましょう。」と語られ地震や津波について学びました。

現在の明石市の南海トラフ地震の想定津波は約115分後に2mとなっております。明石小学校は、標高3.1mなので想定内であれば避難の必要はないということになります。しかし、子どもを守るためには、「津波が想定を超えるかもしれない」との考えを持っておき、より安全を求めて、標高24.6mの錦城中学校への避難を行うことにしています。

それは、これまでに起こった東日本大震災や熊本地震、9月の北海道胆振東部地震の想定を見てみると、多くが想定以上の現象のために人や建物への被害をもたらしているからです。私は、阪神淡路大震災を経験した者として、どうしても現状に触れたくて、上の3つの地震の被害の様子を全て見てきました。どこを見ても、どの現場に立っても、こんなことが起こるなんてことを私には想像できませんでした。あの海から2kmもあるこのあの高さまで津波が来るなんて、まさかここが崩れてくるなんて想像できないと思いました。だから、想定以上のより安全を求める必要があると強く感じています。身を守るのは、子どもであっても自分の判断が大事です。そんな防災意識をどの子も持てるように、今後も取り組んでいきたいと考えております。できれば、ご家庭でも地震や津波について話し合ってみてください。

